

平成21年度  
萌える天北オロロンルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成20年度活動報告への助言に対する状況報告



参考資料1 これからのプロジェクト

(1) プロジェクトの構成

活動のテーマ		『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』																
		1. 景観			2. 食			3. 環境保全			4. レクリエーション			5. 歴史・文化				
ルートストーリー（将来展開）		<p>萌える天北オロロンルートには、この地の風景を楽しむために多くの人が訪れています。地域の人は、沿道に花を植え、見苦しい看板や廃屋を取り除き、また、地域にふさわしい建物や施設のデザインを検討しながら、ルートの風景に愛着と誇りをもって、様々な取り組みを継続的に進めます。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、まず自らが自然の恩恵である地元の食材を味わい、楽しむために、生産者と消費者が一体となった地域ぐるみの活動を展開します。また、さらにより多くの人たちに味わってもらうために、その魅力をPRし、新しいメニュー作りにも取り組みます。このような活動を通して地域ブランドを構築し、この地域の「食」が全国、全世界へと発信します。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、CO2削減に向けた新エネルギーの導入や、身近なゴミの問題、そして地域の生態系を守り育てる活動などを通して自然との共生を実践し、環境先進地域として、他に先駆けた取り組みを進めます。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、私達が楽しんでいるアウトドアスポーツやカルチャーメニューを一つ一つ丁寧に用意するとともに、迎える側としてのホスピタリティを充実し、地域と訪れる人々との間に笑顔と暖かい交流を世界へと広げます。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、先人から受け継いだこれらの貴重な資源を守り育て、そして、過去から現在にいたる悠久の物語を語り継ぎます。また、この地ならではの気象や地形、また人々の気質や共有される価値観に根ざした生活文化を将来に伝えます。</p>				
基本方針		愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出				自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信				地域に優しい『くらしぶり』のお手本づくりと促進			暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり			先代の暮らしぶり新たな価値観を将来に伝え楽しむ		
基本方針におけるキーワード		風景との出会い	花とみどりの景観づくり	愛着と誇りの醸成	地場産品の魅力づけ	新メニューの企画	地域ブランドの構築	クリーンエネルギーづくり	ゴミ対策の取り組み	身近な生態系の保全・還元	ロングドライブのサポート	身近なアウトドアの紹介	各種カルチャー活動による交流	歴史資源の保全と活用	次世代への歴史伝承	独自の生活文化の発信		
プロジェクト	1. フォトコンテスト	●										●				●		
	2. エゾカンゾウ植栽活動		●							●		●						
	3. 景観診断	●		●							●							
	4. 菜種油・ヒマワリクリーンエネルギー	●	●					●				●						
	5. フォーラムの開催	●					●	●			●		●					
	6. 食材オーナー制度				●	●	●											
	7. 萌天の森		●					●		●	●							
情報発信（全項目に関係）		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
長期展望	（想定）ルートを満喫できるツアー	●			●			●			●			●				
	（想定）萌天グッズの企画・開発						●				●					●		
	（想定）食と観光の情報デスク	●				●					●		●					



## ヒラメ底建網オーナーin遠別プロジェクト

【内 容】 少量多品目という食の特性と持つ、当ルートの遠別漁協、遠別産業振興公社、そして留萌市のエフエムもえるが協力して、遠別の特産であるヒラメを地元はもちろん、全国に発信するため、オーナー制度を昨年構築。全国から623人の応募があり、選ばれた120人のオーナーは、漁イベント当日に揚がったヒラメや雑魚を山分けした。

漁当日には、遠別漁港で地域物産販売や、道の駅弁、地元の山芋を使ったトトロどんぶりなどをはじめ、地元の農業高校生が作った花なども実演販売され、約40人のオーナーをはじめ、地域住民もイベントを終日楽しんだ。平成22年も引き続き実施されることが決定している。

【日 時】 平成21年6月20日（土）

【場 所】 遠別漁港

【主 催】 ヒラメ底建網オーナーin遠別実行委員会（遠別漁協、遠別農業高校、エフエムもえる）

【協 力】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議、(株)遠別産業振興公社、遠別地域マリンビジョンフォローアップ委員会

【後 援】 留萌開発建設部、北海道留萌支庁、遠別町



出港の様子



ヒラメひらき方教室



パネル展



出店状況

## 萌天の森プロジェクト

【内 容】 環境に配慮したドライブ観光の推進や、豊かな生態環境の創出、地域活性化の気運を高めるなどを目的として、遠別町の『萌天の森』で植栽活動を行っている。  
5月にグイマツ、9月にはトドマツの植栽を行い、定期的に苗木周辺の下草刈りを実施している。  
また、カーボンオフセット型ツアーによる「シーニックの森」づくりとも連携しており、植栽の受け入れ地としても取り組んでいる。

【日 時】 平成21年4月～10月 5回

【場 所】 天塩郡遠別町丸松

【主 催】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議

【後 援】 北海道開発局留萌開発建設部



植樹活動状況



下草刈りのメンテナンス

## 寄り道しようよ！ 罷道！！プロジェクト

【内 容】 『苫前町三毛別ヒグマ事件』は、ライダー独自のコミュニティによって知れわたった観光スポットとなっています。一方、地元の飲食店等には、全国各地から口コミで多くのライダーが立寄っていますが、様々な情報交換の中では『苫前町三毛別ヒグマ事件』現場への経路が判りづらいといった声も聞かされています。このことはヒグマ事件現場に限ったことではなく、幹線道路から離れた『バイウェイ』に観光資源が点在するというルート全体の共通の課題（特徴）でもあるのです。そこで、本プロジェクトでは、ライダーの小気味な徘徊性や独自の情報ネットワークに着目し、沿道施設における情報（接客、ウェブ、パンフ、案内板）の整備を試験的に行い、同時にライダーへのアンケートを実施して、ルート全体における『しつらえ』を形成するための考え方や、観光資源の良さを伝える情報コンテンツを明らかにします。

【日 時】平成21年8月中旬～9月上旬

【場 所】苫前町

【主 催】苫前町観光協会・苫前町商工会青年部

【協 力】苫前町郷土史研究会・苫前町イメージアップ協議会

【参加人数】200人



三毛別ヒグマ事件復元現場



仮設誘導看板設置状況



来訪の記念としてのフラッグ



4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

前段

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者: 留萌開発建設部		報告年月: 2010/3/31			
ルート(エリア)運営活動計画方針	平成21年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No	
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	道路付属施設の検討	1月28日・1月29日・3月11日	小平町、苫前町、初山別村、天塩町、遠別町、増毛町、留萌開発建設部	昨年実施した景観診断での意見を基に、各地域での意見を取り入れた基幹ルートである国道の道路付属施設の配置検討を行った。また、天塩町において更新時期を迎えた道路標識を、景観に配慮した道路標識に付け替えた。課題としては、既に設置されている防雪柵(未収納タイプ)が眺望を妨げている場合が多く、長期的な配置計画の検討が必要である。また、景観を阻害している電柱・電線などの道路占用物についても移設等の協議を要する必要がある。	配置検討案を基に、具体的な整備を進めていく。	3
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	第2回 萌える天北オロロンルートフォトコンテスト受賞作品巡回展	H20.12.22～H21.7.5	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌支庁、留萌開発建設部	留萌管内9市町村において、フォトコンテスト受賞作品の巡回展を行い、場所の提供及び作品展示の協力を得た。また、東川町にて行われた全道ルートフォトコンテストの出品にも協力した。	他ルートで行っているフォトコンテストと連携して交換展示を今後検討する。	1
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	ピラミッド建網オーナープロジェクト(食材オーナー制度プロジェクト)	6月20日	留萌開発建設部 遠別町 留萌支庁	イベント運営協力や地元調整およびイベント会場内で萌える天北オロロンルートのパネル展の実施を行った。	地域ブランド構築のため、継続に向けた行政としての支援体制の検討が必要。	6
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本と促進	萌天の森プロジェクト	10月14日	留萌開発建設部	「萌天の森」において、荒地の景観向上とドライブ観光で排出されるCO2を吸収するカーボンオフセットの取組も兼ね合わせた植栽を実施。また、昨年度植栽箇所の下草刈りも行った。	行政も協力し継続した維持管理体制の検討が必要。	7
	地球に優しい「くらしぶり」のお手本と促進	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	5月～9月	留萌開発建設部 小平町	昨年採取した種を5月にプランターへ植えたが、天候不良等により発芽状態が非常に悪かったため、地域住民との苗植が出来なかった。7月にも自生エゾカンゾウの種子採取を実施し、来年の苗植に向け9月に種植を実施。課題としては、必要な資材を毎年提供して貰える協力体制を構築する必要がある。	地域で今後も継続して実施出来るように協力していく。	2
情報提供活動	ルート活動の情報共有	行政連絡会議情報の配布	通年	行政連絡会議全構成機関	行政連絡会議事務局より、行政連絡会議全構成機関へ「萌える天」や行政の活動状況を情報共有するため、情報誌を作成し配布した。	今年度は2回のみ配布であったが、今後はタイムリーな情報提供に努め、分かり易く効果的な内容で今後も継続して作成していく。	8
	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	道路情報板での「萌える天北オロロンルート」表示	通年	留萌開発建設部	指定ルートとなったことにより、シーニックバイウェイ「萌える天北オロロンルート」を地元や観光客などに認知していただくことを目的に、シーニックバイウェイルート沿線の国道情報板に「萌える天北オロロンルート」の表示を実施。		8
	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	広報誌でのルート活動の広報	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町	管内各自自治体で発行される広報誌に萌える天北オロロンルートの活動状況や活動予定などの情報を毎月掲載。		8
	ルート情報の提供と創出	萌える天北オロロンルートホームページのリンク	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	萌える天北オロロンルートの広報の為、各行政機関のホームページに萌える天北オロロンルートHPのリンクを掲載した。	シーニックバイウェイ及び萌える天北オロロンルートの認知度向上のために、今後も継続的に実施する。	8
	ルート情報の提供と創出	「るもいfan.net」のリンク及び「るもいfan通信」の掲示	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	地域情報発信システム実行委員会で作成している「るもいfan.net」を各行政機関ホームページにリンクを掲載。また、フリーペーパー「るもいfan通信」を各関係機関庁舎内に掲示した。		8

※表中“★”はH21新規活動

5. 平成20年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月: 2010/3/31
---------------------	--------------	-----------------

平成20年度活動報告への助言	平成21年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウエイ北海道の持続的推進やブランドの形成・活用に向け、引き続き、ルート活動の地域への浸透、人材育成の充実、ルート活動の基盤の強化に努められたい。</p>	<p>・シーニックバイウエイ北海道の理念実現のもと、当ルートでは、魅力ある沿道を演出するため、独自の手法において、様々な独創的な取り組みを展開した。エゾカンゾウ植栽プロジェクトや食材オーナー制度などは、普段の暮らしの中にある当たり前の情景を、訪れる方々に、北海道西海岸の風土を知って頂き、本来の古よりあった暮らしを観てもらうことで、活動がルート内で浸透し、新たな人材育成としても寄与していたと考える。しかし、その速度は急ぎ足ではないため、実感がわからないことも多いかと思うが、当初より無理をした活動は避け、背伸びをせず、じっくりと永く続くという念頭を持ち、取り組んでいる。</p> <p>・次年度以降は、逆にマンネリ化を防ぐための活動展開が必要になってくる時期と考えているため、今一度、しっかりとした実施計画の立案に着手したい。新たに取り組むべきもの、しっかりと行いながら、プロジェクト制の中で各活動団体が連携し、全体をコーディネートする幹事会で基盤強化について議論を進めてきた。更に充実した取り組みになるよう、心掛けて行きたい。</p>	

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2010/3/31
---------------------	--------------	-----------------

平成20年度活動報告への助言	平成21年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウエイ北海道の持続的推進やブランドの形成・活用に向け、引き続き、ルート活動の地域への浸透、人材育成の充実、ルート活動の基盤の強化に努められたい。</p>	<p>ルート活動を地域へ広く浸透させるため、「行政連絡会情報」(かわら版)をメーリングリストを用いてルート内の活動情報を発信している。また、行政連絡会議の場を活用した情報提供や情報共有の徹底を図るとともに、行政間の積極的な連携体制の確立が必要である。</p> <p>人材の育成については、行政担当者のルート活動へ積極的な参加を図り、理解と意識を深めることが必要である。</p> <p>ルート活動の基盤の強化については、現在活動しているルート活動が継続して実施できるように行政としての支援を勧め、ルート内へ活動を広めるとともに、地域住民に浸透した活動になるようにすることが必要である。</p>	